

<第2次総合計画進行管理表>

施策評価表

作成日 令和4年6月24日(金)

1. 基本事項

|              |  |                      |                      |              |  |         |   |
|--------------|--|----------------------|----------------------|--------------|--|---------|---|
| 施策           |  | 家庭・地域・学校の連携による教育力の向上 |                      | 期間           | 平成30年度～令和4年度   | 施策担当部課名 | 教育部 生涯学習スポーツ振興課   |
| 総合計画         | 大項目  | 2                    | 次代を担う人と文化を育むまち       | 目的・対象        |  |         | 家庭での教育力を高めるとともに、地域のコミュニティ全体で子どもを見守り、育てることができる社会を目指す。「親の学習」や地域学校協働活動、学校応援団活動などの推進により、親が家庭教育について学ぶ機会を増やし、地域が学校を支援する体制を充実させ、家庭・地域の教育力を向上を図る。 |
|              | 中項目  | 1                    | 共に学び成長が実感できるまちづくり    |              |  |         |   |
|              | 小項目  | 2                    | 家庭・地域・学校の連携による教育力の向上 |              |  |         |   |
|              | 主要プロジェクト   |                      |                      |              |  |         |   |
| 重要度・満足度      | 家庭や地域の教育力低下が指摘されており、家庭、地域の教育力向上が重要視されているなか、高い満足度を得ている。                                     |                      |                      | 施策推進のための主な取組 | 親の学習、家庭教育学級の実施<br>教育情報紙による啓発活動の実施<br>学校応援団の推進<br>地域学校協働活動推進員活動の推進<br>地域の人々と子どもたちの交流の推進 |         |   |
| 施策を取り巻く社会状況等 | 家庭環境の大きな変化や地域社会の連帯意識の希薄化により、家庭及び地域の教育力が低下している。そのため、児童虐待、放任の問題が生じ地域の人との触れ合い、学ぶ機会の重要性が増している。 |                      |                      |              |  |         |   |

2. 評価指標

上段は目標値、下段は実績値

| 区分   | 指標名(上段)<br>算出式・説明(下段)        | 単位 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度  | 令和3年度  | 令和4年度  |
|------|------------------------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|      |                              |    |        | 未達成    | 一部達成   | 未達成    | 未達成    |        |
| 成果指標 | 地域の行事や活動に参加している子どもの割合        | %  | -      | 71.30  | 71.60  | 72.00  | 72.50  | 73.00  |
|      | 全国学力・学習状況調査質問紙               |    | 66.12  | 66.52  | 74.85  | 0.00   | 64.10  |        |
|      | 学校応援団の年間延べ活動回数(1校あたり)        | 回  | -      | 267.00 | 275.00 | 284.00 | 292.00 | 300.00 |
|      | 学校応援団推進事業実施報告書(年間活動回数総計/29校) |    | 217.00 | 223.00 | 249.00 | 150.00 | 178.00 |        |
|      |                              |    |        |        |        |        |        |        |
|      |                              |    |        |        |        |        |        |        |
|      |                              |    |        |        |        |        |        |        |

3. 一次評価(今後の施策の方向性)

|  |      |                     |
|--|------|---------------------|
| 区分   | 現状維持 | 1. 現状維持 2. 拡充 3. 縮小 |
| <p>成果指標「地域の行事や活動について参加している子どもの割合」及び「学校応援団の年間延べ活動回数」は、目標値を下回っている。いずれもコロナ禍における活動の自粛などが影響したものと考える。引き続き、地域と学校が連携・協働し、子どもたちの学びや成長を支えるなど、地域を創生していく「地域学校協働活動」の推進を図るとともに、地域学校協働活動推進員、学校運営協議会、学校応援団活動等により学校と地域の連携強化を図り、地域とともにある学校づくりを進める。</p> |      |                     |
|  | 評価者  | 生涯学習スポーツ振興課長 荻野 昌利  |

4. 改善改革プラン(3. 一次評価を受けての具体的な解決策)

| 区分  | 具体的な対応策等   |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 既存事業の拡充 | 市内小・中学校に配置した地域学校協働活動推進員が、地域と学校をつなぐコーディネーター役として、学校運営協議会や学校応援団活動と連携を図るとともに、地域学校協働活動を行う地域住民等に対し指導・助言などを行うなど、推進員活動の活発化を図る。また、家庭教育アドバイザーを活用した「親の学習」講座のさらなる充実を目指し、より効果的な啓発方法を検討する。 |
| <input type="checkbox"/> 事業の新規立案            |  |
| <input type="checkbox"/> 事業の廃止・縮小           |  |
| <input type="checkbox"/> 事務事業の再編            |  |
| <input type="checkbox"/> その他                |  |

5. 二次評価(所属長の見解)

|   |            |
|---|------------|
| <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、「がんばル〜ム」や「親の学習」講座、家庭教育学級等の事業や学校応援団活動等は縮小・中止となり、予定した施策の展開を図ることができなかった。こうした状況下においても、家庭環境の大きな変化や地域社会の連帯意識の希薄化は進み、家庭及び地域の教育力の低下が依然と懸念されている。地域における教育は、学校教育の基礎となるとともに学校教育では得られない知識や経験等を子どもたちに与えることができることから、日々の地道な積み重ねが大事であり、引き続き、積極的に事業を展開し、家庭及び地域の教育力の向上に資する取組を行う。</p> |            |
| 所属長   | 教育部長 荻野 昌利 |